ふりがな　　しおじ　えつろう

氏 名　　**塩路 悦朗**

1. 学歴

1987 年　3 月　東京大学経済学部卒業

1987 年　4 月　東京大学大学院経済学研究科第二種博士課程入学

1990 年 10 月　イェール大学（米国）大学院経済学部博士課程入学

1995 年　5 月　イェール大学（米国）大学院経済学部博士課程修了（Ph. D. in Economics）

2. 職歴・研究歴

1994 年　9 月　ポンペウ・ファブラ大学（スペイン）経済学部助教授

1997 年 10 月　横浜国立大学経済学部助教授

2000 年 10 月　デューク大学（アメリカ）において在外研究（客員研究員，2001 年 4 月まで）

2002 年　4 月　横浜国立大学 大学院 国際社会科学研究科 助教授

2006 年　4 月　一橋大学大学院経済学研究科助教授

2007 年　4 月　一橋大学大学院経済学研究科准教授

2007 年 10 月　一橋大学大学院経済学研究科教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

（a）学部学生向け

マクロ経済学

（b）大学院

上級マクロ経済学

B. ゼミナール

学部後期，大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

マクロ経済学・上級マクロ経済学の講義においては，動学的なマクロ経済学のエッセンスを深く理解することを目的とする。

4. 主な研究テーマ

マクロ経済学（時系列分析手法を応用した日本経済の実証分析，新しい開放マクロ経済学，不確実性ショックの波及効果の分析，ミクロデータを用いた家計の資産選択の分析）

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

『経済動向指標の再検討』(経済分析 政策研究の視点シリーズ 19)美添泰人・大平純彦・塩路悦朗・勝浦正樹・元山斉・高瀬浩二・大西俊郎・沢田章・青木周平・北岡智哉・芦沢理恵・前島秀人著, 内閣府経済社会総合研究所, 2001 年 3 月, 208 頁。

『景気指標の新しい動向』(経済分析第 166 号)美添泰人・大平純彦・塩路悦朗・勝浦正樹・元山斉・大西俊郎・沢田章・木村順治・児玉泰明著, 内閣府経済社会総合研究所, 2003 年 2 月, 286 頁。

(b) 論文(査読つき論文には*)

「戦前日本経済のマクロ分析」(吉川洋氏との共著)『経済理論への歴史的パースペクティブ』吉川洋・岡崎哲二編, 東京大学出版会, 第 6 章, 1990 年, 153-180 頁。

Regional Growth and Migration, Ph. D. thesis, Yale University, 1995. "Convergence in Output per Capita and Public Capital in Japan: Evidence from the Corrected LSDV Method," 『エコノミア』第 49 巻, 第 3・4 号, 1999 年 2 月, 33-48 頁。

「日本経済の長期的展望と社会資本」『ESP』No. 325, 1999 年 5 月, 23-27 頁。

* "Identifying Monetary Policy Shocks in Japan," *Journal of the Japanese and International Economies* 14, pp. 22-42 (2000), Academic Press.

「日本の地域所得の収束と社会資本」『循環と成長のマクロ経済学』吉川洋・大瀧雅之編, 東京大学出版会, 第 8 章, 2000 年。

「社会資本の生産性効果に非線形性はあるか?」『エコノミック・リサーチ』No. 9, 2000 年 3 月, 35-41 頁。

「クロス・カントリー・データによる経済成長の分析:サーベイ」『フィナンシャル・レビュー』No. 54, 2000 年, 42-67 頁。

* "Composition Effect of Migration and Regional Growth in Japan," *Journal of the Japanese and International Economies* 15, pp. 29-49 (2001), Academic Press.

* "Public Capital and Economic Growth: a Convergence Approach," *Journal of Economic Growth* 6, pp. 205-227 (2001), Kluwer Publishers.

「経済成長の源泉としての社会資本の役割は終わったか」『社会科学研究』第 52 巻 4 号, 2001 年。

* "Initial Values and Income Convergence: Do "the Poor Stay Poor"?" *Review of Economics and Statistics* 86 (1), pp. 444-446(2004)

「日本における技術的ショックと総労働時間:新しい VAR アプローチによる分析」(R. Anton Braun 氏との共著)『経済研究』(一橋大学)Vol. 55, No. 4, 2004 年 10 月, 289-298 頁。

* "Term Structure of Interest Rates and Monetary Policy in Japan," *Journal of Money, Credit, and Banking* 38 (1), pp. 141-162 (2006).

「金融不安・低金利と通貨需要:「家計の金融資産に関する世論調査」を用いた分析」藤木裕氏との共著『金融研究』24(4), 1-50 頁, 2005 年 12 月。

「インボイス通貨とバスケット・ペッグ制度」福田慎一・小川英治編『国際金融システムの制度設計:通貨危機後の東アジアへの教訓』東京大学出版会, 2006 年 2 月。

"Estimating urban agglomeration economies for Japanese metropolitan areas: is Tokyo too large ?" joint with Yoshitsugu Kanemoto, Toru Kitagawa and Hiroshi Saito, Chapter 16 of *GIS-based Studies in the Humanities and Social Sciences*, Taylor & Francis Group, LLC (edited by Atsuyuki Okabe), January 2006.

＊"Monetary policy and economic activity in Japan, Korea and the United States," joint with R. Anton Braun, *Seoul Journal of Economics* 19(1) (2006).

＊"Invoicing currency and the optimal basket peg for East Asia: analysis using a new open economy macroeconomic model," *Journal of the Japanese and International Economies* 20 (4) (2006).

「東アジア内の戦略的相互依存とバスケット通貨制度：人民元改革と東アジア通貨の将来」伊藤隆敏・小川英治『東アジア・バスケット通貨の経済分析』東洋経済新報社，2007 年。

「投資ショックと日本の景気変動」（R. Anton Braun 氏との共著）林文夫編『経済停滞の原因と制度（経済制度の実証分析と設計）』第 5 章，勁草書房，2007 年。

「マクロ経済学は「失われた 10 年」から何を学んだか」チャールズ・ユウジ・ホリオカ，伊藤隆敏，岩本康志，大竹文夫，林文夫との共著，市村・伊藤・小川・二神編『現代経済学の潮流 2007』東洋経済新報社，2007 年。

「社会資本の生産力効果の非線形性：大都市圏データによる再検証」大瀧雅之編『平成不況：政治経済学的アプローチ』東京大学出版会，2008 年。

「銀行行動と貨幣乗数の低下」小川英治・福田慎一編『現代金融経済の潮流（仮）』東大出版会，2009 年刊行予定。

（c） 翻訳

J. A. フレンケル・A. ラジン著『財政政策と世界経済』河合正弘監訳，千明誠・村瀬英彰・塩路悦朗・今井晋・杵渕美智子訳，HBJ 出版局，1990 年（原題 Fiscal Policies and the World Economy, MIT Press, 1987 年）。

B. 最近の研究活動

（a） 国内外学会発表（基調報告・招待講演には*）

"Who Killed the Japanese Money Multiplier? A Micro Data Study of Banks," Far Eastern Meeting of the Econometric Society（2004 年 6 月 30 日-7 月 2 日，ソウル）報告。

パネルディスカッション「マクロ経済学は「失われた 10 年」から何を学んだか」（座長 チャールズ・ユウジ・ホリオカ，パネリスト伊藤隆敏，岩本康志，大竹文夫，塩路悦朗，林文夫）基調報告，日本経済学会 2006 年秋季大会（2006 年 10 月 8 日）

"Investment Specific Technological Changes in Japan,"（R. Anton Braun 氏との共著）Seoul Journal of Economics Conference（2006 年 11 月 24 日，ソウル）報告。

"Fiscal policy in a New Keynesian Overlapping Generations Model of a Small Open Economy," ブー・トゥン・カイ，竹内紘子との共著（2007 年 9 月 4 日，第 10 回 ISR コンファレンス）。

同論文（2007 年 12 月 6 日，日本大学セミナー）。

同論文（2007 年 12 月，神戸大学経済経営研究所セミナー）。

"Non-tradable goods, Incomplete Nominal Exchange Rate Pass-through and the Effects of Fiscal policy in a Small Open Economy," ブー・トゥン・カイ，竹内紘子との共著（2008 年 3 月 7 日，マクロ経済学研究会（大阪））。

「不確実性の増大と流動性資産需要：動学的一般均衡モデルによる分析」（2008 年 7 月 24 日，慶応木曜研究会）

同論文（2008 年 10 月 16 日，東北大学現代経済学研究会）。

（b） 国内研究プロジェクト

科学研究費補助金特定領域「経済制度の実証分析と設計」2000 – 2006 年度，代表者林文夫

学術創成研究「日本経済の物価変動ダイナミクスの解明：ミクロとマクロの統合アプローチ」2006 – 2011 年度，代表者 渡辺努

グローバル COE プログラム「社会科学の高度統計・実証分析拠点構築」2008 – 2012 年度, 代表者 深尾京司

(d) 研究集会オーガナイズ

国際交流セミナー, 岩田茂氏(カンザス大学), 2007 年 12 月 17 日, 一橋大学にて開催。

国際交流セミナー, Gerhard Glomm 氏(インディアナ大学), 2008 年 6 月 30 日, 一橋大学にて開催。

第 10 回マクロ・コンファレンス(チャールズ・ユウジ・ホリオカ, 櫻川昌哉との共同), 2008 年 12 月 6 日-7 日, 一橋大学 ICS にて開催。

第 1 回冬季マクロ経済学研究会(齊藤誠他との共同), 2009 年 2 月 27 日-3 月 1 日, 湘南国際村にて開催。

C. 受賞

APFA/PACAP/FMA Finance conference(2002 年 7 月 14 日-17 日) Best Paper Award(対象論文:"How are macroeconomic risks priced in the Japanese asset market?" R. Anton Braun 氏との共著)

6. 学内行政

(b) 学内委員会

学部教育専門委員(2008 年 4 月 – 現在)

学生委員(2008 年 4 月 – 現在)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

横浜国立大学大学院国際社会科学研究科 非常勤講師, 2006 年度(マクロ経済学 1・2), 2007 年度(Analysis of Economic Growth)

横浜国立大学経済学部 非常勤講師, 2006 年度(マクロ経済学)

東京大学公共政策大学院 非常勤講師, 2004 年度(マクロ経済学, 伊藤隆敏氏と共同)

日本銀行「理論研修」講師, 1998 年 – 2008 年 8 月(初級マクロ経済学)

(b) 所属学会および学術活動

日本経済学会

東京経済研究センター(TCER)

統計研究会金融班

Associate Editor, Regional Science and Urban Economics

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

日本銀行金融研究所客員研究員, 2003 年 10 月 – 2005 年 10 月

財務省「日本経済の分析及び景気回復のシナリオ策定」研究会委員, 2004 年 1 月-3 月

経済産業研究所, バスケット通貨研究プロジェクト研究委員, 2004 年 12 月 – 2008 年 3 月

内閣府経済社会総合研究所基準改定課題検討委員会委員, 2004 年 6 月 –

日本銀行調査統計局アドバイザー, 2007 年 4 月 –

統計審議会, 専門委員, 2007 年 7 月-9 月, 2008 年 5 月- 7 月

9. 一般的言論活動

「TFP エコノミー—経済底上げの条件 第 3 回，社会の潜在力発揮—政府は制度の質向上を」『日本経済新聞』経済教室，2007 年 4 月 4 日。

「最近のマクロ経済学：接近する古典派とニュー・ケインジアン」『エコノミスト』2008 年 9 月 9 日号。

金融危機に関する公開討論会，2008 年 11 月 19 日，場 所：一橋大学兼松講堂，パネリスト：小川英治（商学研究科教授），齊藤誠（経済学研究科教授），塩路悦朗（経済学研究科教授），前原康宏（国際・公共政策大学院教授），渡部敏明（経済研究所教授），コーディネーター：北村行伸（経済研究所教授）。